

坪田紀明 (著)

イラストレイテッド肺癌手術 手技の基本とアドバンス・テクニック 〔DVD 付〕第 2 版

浅村尚生

(国立がんセンター中央病院呼吸器外科部長)

坪田紀明先生は、肺癌外科の世界では皆に広く知られている外科医であり、私にとっても尊敬する大先輩である。肺癌外科手術の技術面に深くこだわり、精度の高い、安全な手術を真摯に希求されてきたことは夙に有名である。道を同じくする私が先生を尊敬する所以でもある。管理職になって手術から遠ざかり、外科技術には関心がなくなってしまう人も多いなか、これは大変なことであると思う。

その坪田先生の『イラストレイテッド肺癌手術』が改訂された。学会の書籍展示販売コーナーでこの本を手にしたとき、私は正直「やられた!」と思った。私も、今まで蓄積してきた技術や工夫をまとめてみたいという希望をもっているが、この本のような詳細かつ組織だった技術の解説は到底無理であり、その気力や根気もなさそうに思ったからである。この本の中で、坪田先生は特に気管支形成術と区域切除術に力点を置いて執筆をされたのではないかと思う。

兵庫県立成人病センター（現、兵庫県立がんセンター）でのキャリア後半では、特に区域切除の改良と工夫に取り組み、その間に蓄積されたノウハウが十分本書には記載されている。

この本の最大の特徴は、坪田先生ご自身の手による非常にわかりやすいイラストである。この本が「イラストレイテッド」と冠される所以であるが、私にはこれが大変ありがたい。外科手術の立体的な理解は、解説に 1 頁を割くより、1 枚の優れたイラストによるほうがずっと楽である。正確でわかりやすいイラストはこの本の財産である。このようなイラストが描ける背景には、局所解剖の深い理解と手術手技に対する深い洞察があることを若い読者は認識すべきであろう。国立がんセンター中央病院では、レジデントに手術記録としてイラストを描くよう指導しているが、その理由もこの辺にある。正確な手術記録のイラストは、正確な局所解剖の知識がないと描け

ないからである。だから勉強になるのである。しかし、レジデントたちが皆、坪田本と同じようなイラストを描くようにならないか心配である。

特に、解剖学が手術の成立上特に重要となる区域切除術では、正確で詳細なイラストは大変役に立つ。私が第 60 回日本胸部外科学会学術集会（2007 年 10 月；仙台）のランチョンセミナーで区域切除の講義を行ったとき、坪田先生のこの本を推奨させていただいたのも、それが理由である。今後は、小さな早期肺癌を手術する機会が増えてゆくであろうが、その際行われる区域切除は、これから呼吸器外科手術を学ばれる若い修練医にとっては重要性が高くなる。手術の前には、本書を熟読されて、解剖学的構造と手技を頭に叩き込むべきである。

私は、指導医、修練医を問わず診療にあたっている呼吸器外科医は、本書により再度技術の整理、確認をすることをお勧めする。そして、難手術に臨む前には、当該箇所を熟読することで、その手術はずっと楽になると思う。本書はそのような「役に立つ」本である。

●A4/頁 216/2007 年/定価 18,900 円（本体 18,000 円+税 5%）
[ISBN978-4-260-00461-9]
医学書院 刊